

中央環境審議会自然環境部会 自然公園等小委員会（第37回）

国立公園事業の決定・変更案件 に関する説明資料

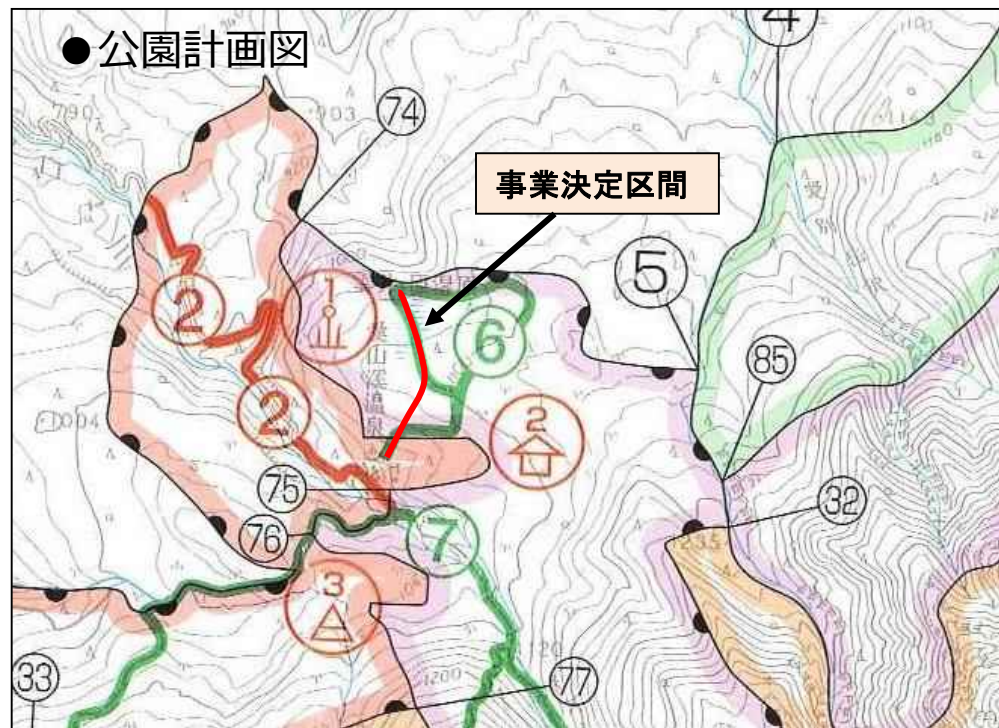
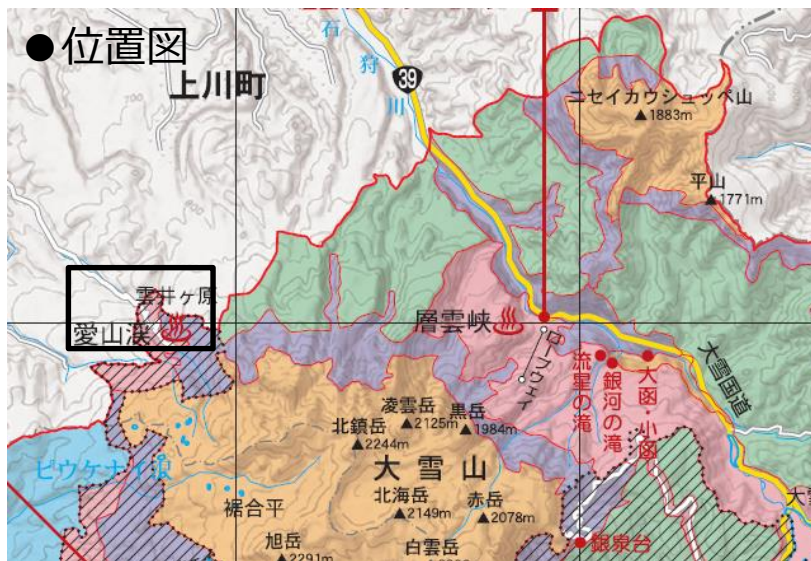
大雪山国立公園 雲井ヶ原線道路（歩道）

決定

路線距離：1.0km

執行者（予定）：上川町

第1種特別地域、第2種特別地域（道有林）



○雲井ヶ原線道路（歩道）は、愛山溪温泉から北約600mに位置し、雲井ヶ原湿原に至る路線である。

○過去に木道等が整備されたが、現在は木道の腐朽やササの成長によって歩道が不明瞭になっており、通行禁止となっている。

路線距離：1.0km

執行者（予定）：上川町

●決定区域図



ササが成長し一部倒木も見られる。



雲井ヶ原湿原（ミズバショウ）



雲井ヶ原湿原
（腐朽した木道）



雲井ヶ原湿原（小杉放菴記念日光美術館
国立公園絵画コレクション・足立源一郎
作「愛別岳・比布岳」が描かれた場所）

- 上川町では利用者のニーズに合わせた多様な自然体験の場の提供が課題となっており、本事業の実施により、湿原の散策、自然観察会の場所としての新たな活用が期待される。
- 過去に登山道として利用されていた区間を公園事業として決定する。

歩道の再整備

- 腐朽した既設木道の交換やササの刈払い等を行い、登山道として供用できる状態にする。



自然環境への影響

- 再整備及び維持管理は「大雪山国立公園における登山道整備技術指針」（平成28年3月北海道地方環境事務所）に従って実施し、自然環境への影響を抑えつつ、快適な利用を実現する。
- 例えば植生への影響を抑えるため、木道周辺への踏み込みを必要最小限にする。また、腐朽した木材を交換することを原則として、新たに杭や枕木を使用しない。
- ササの刈り払う際は湿原植物の生育状況に注意する。

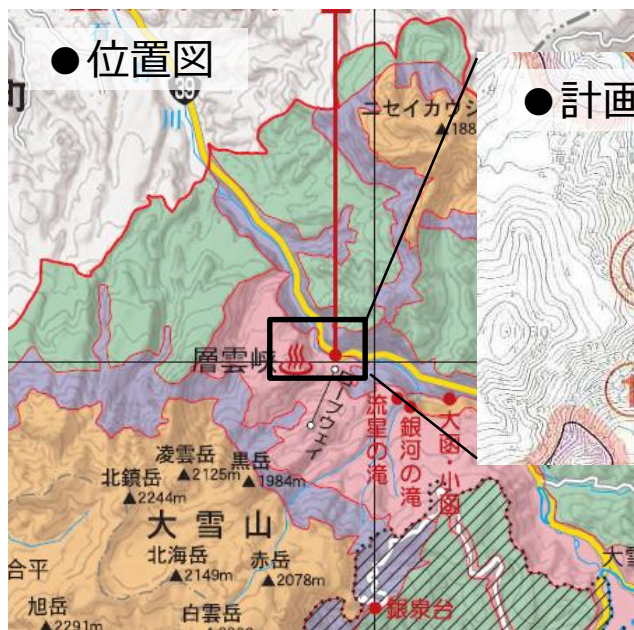
大雪山国立公園 層雲峡園地

変更

区域面積：2.5ha→4.6ha

執行予定者：環境省、上川町

第2種特別地域（環境省所管地、公有地）

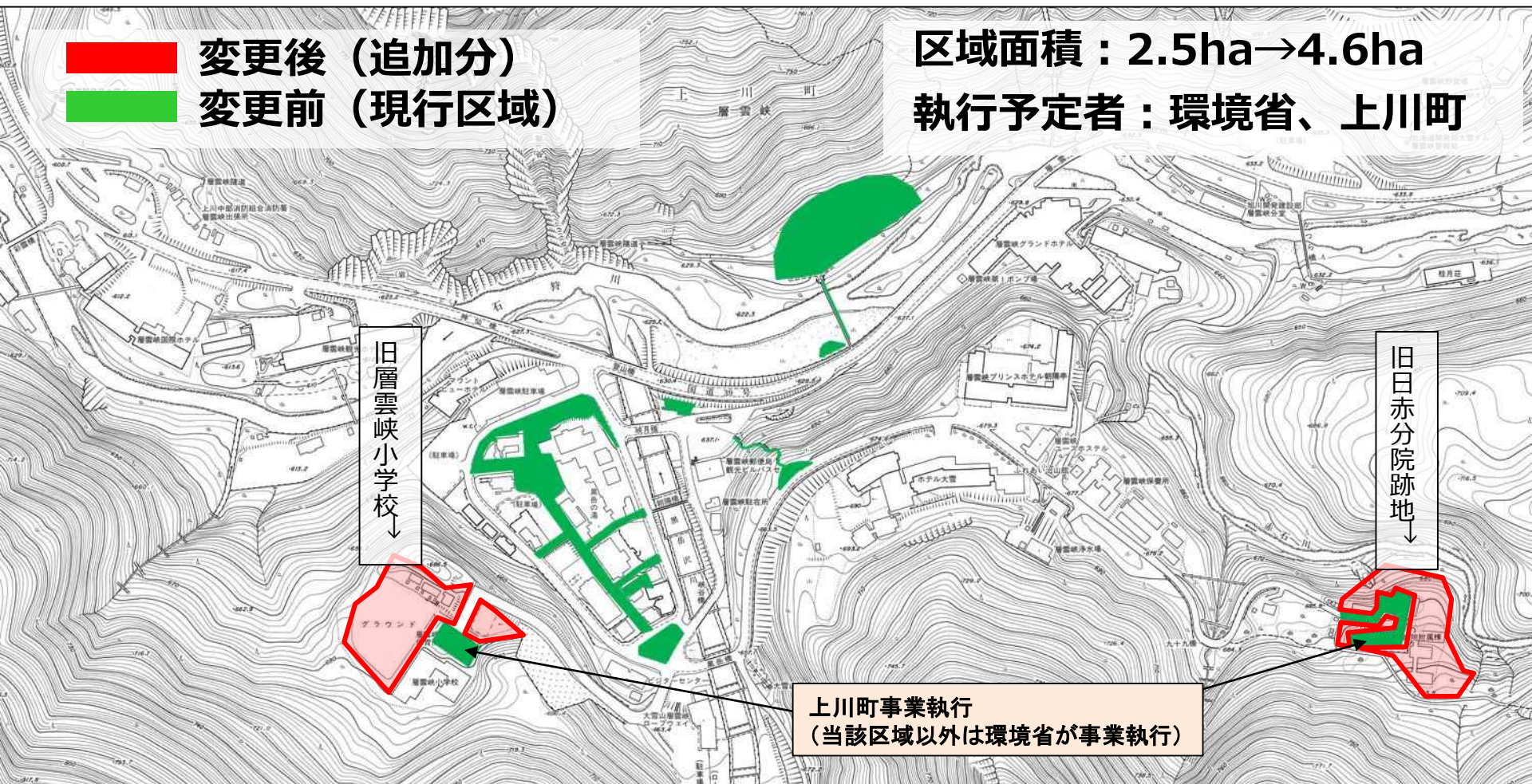


○層雲峡園地は層雲峡峡谷の中央部、層雲峡集団施設地区に位置しており、集団施設地区の中核を成す施設として大雪山登山、峡谷探勝等の拠点に利用されている。

■ 変更後（追加分）
■ 変更前（現行区域）

区域面積：2.5ha→4.6ha

執行予定者：環境省、上川町



旧層雲峡小学校
↓

旧日赤分院跡地
↓

上川町事業執行
(当該区域以外は環境省が事業執行)

- 旧層雲峡日赤分院跡地や旧層雲峡小学校のグラウンドを整備するため、2.1haを追加する。
- 既存の園地に加えて、自然観察の利用拠点や自然を活用した地域のイベントを実施できる空間を増やすことで、層雲峡集団施設地区の利用上の課題である自然体験利用の推進を図る。

○旧層雲峡日赤分院跡地や旧層雲峡小学校のグラウンドにおいて、自然観察の利用拠点や自然を活用した地域のイベントを実施できる空間を整備する。

●旧層雲峡小学校

層雲峡・大雪山写真ミュージアム周辺園地計画 (0)

■展望広場
・温泉街之山見みを眺望

■植栽
・芝生・草花

■遊歩道
・遊歩道

■遊具広場
・子ども遊び場 (種命遊具)

■前庭広場
・公園用バスター

■駐車場
・普通乗用車 37台

■駐車場
・普通乗用車 14台

■駐車場
・普通乗用車 21台

■駐車場
・普通乗用車 3台

■駐車場
・バス3台(普通乗用車確保(後述)乗車)・普通乗用車 21台

事業執行中 (上川町)
ベンチ・広場

イベント広場
駐車スペース
植栽

●旧日赤分院跡地

普通乗用車 8台

案内板

デッキ
スツ

事業執行中 (上川町)

植栽、
デッキテラス等

植栽

植栽、
散策路

自然環境への影響

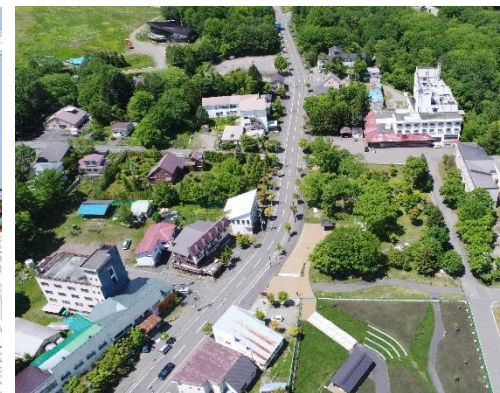
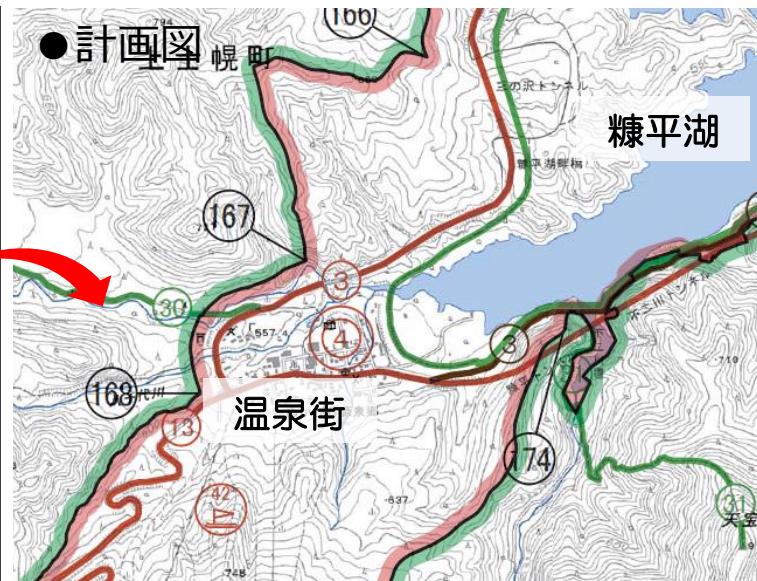
○地形の改変等を行わないため自然環境への影響は小さいと考えられるが、修景緑化をする際には地域性系統種を用い、斜面の緑化は周囲の植物の侵入を促す方法で行う等、自然環境への影響を最小限にとどめるよう配慮する。

大雪山国立公園 糠平園地

変更

区域面積：11ha→16ha
執行予定者：上士幌町

第2種特別地域（国有林、町有地、民有地）

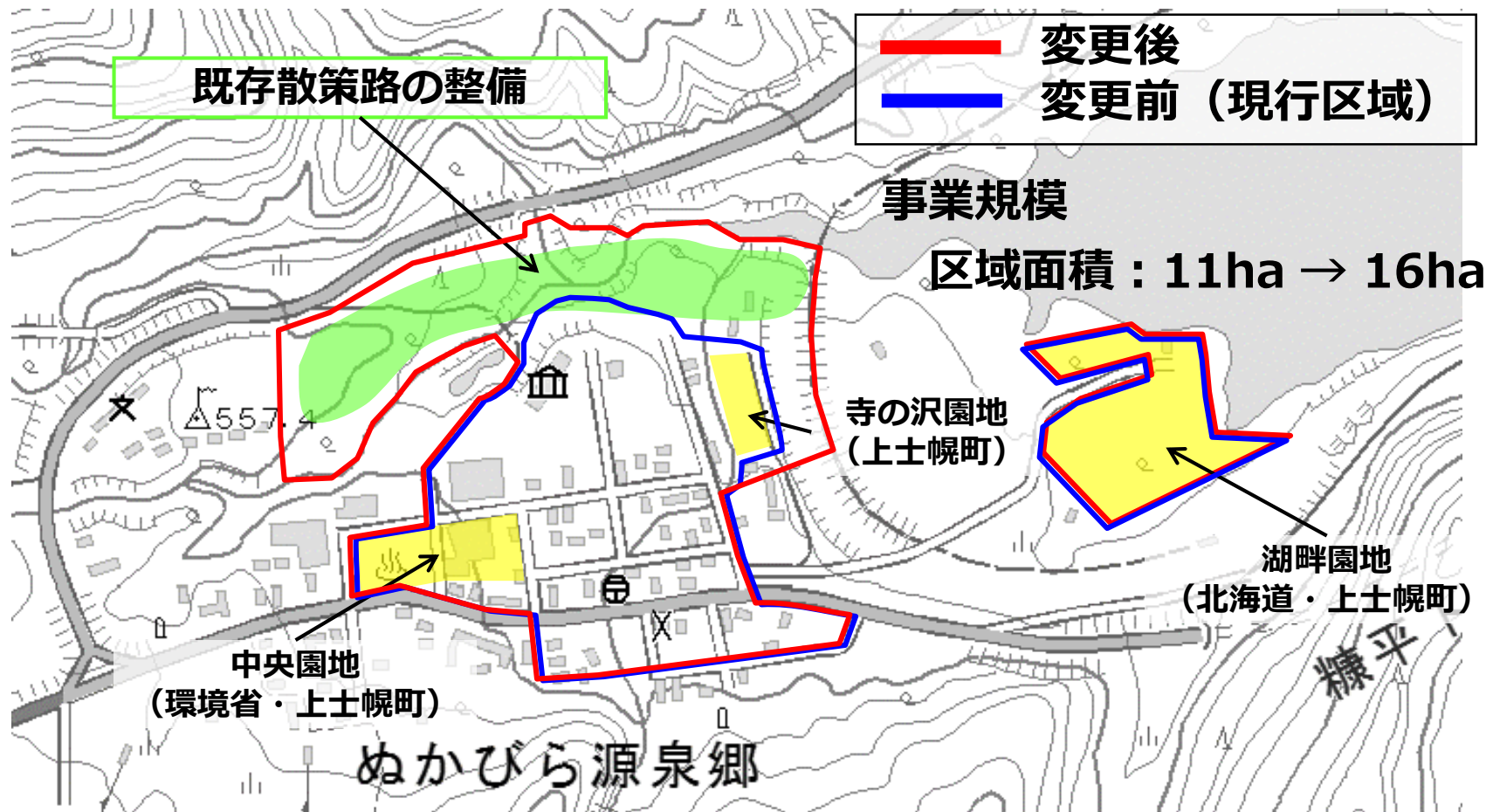


温泉街と地区中央部の園地

- 東大雪地域の玄関口にあたるめかびら源泉郷内に位置し、糠平湖の南西岸にあたる。
- 主な利用形態は温泉、旧国鉄線路跡の見学、糠平湖のワカサギ釣り等である。平成29年度の同地区内に位置するビジターセンターの入館者数は82,175人であった。
- 3箇所の園地があり、観光客の休憩の場となっている。



ビジターセンター



- 利用者にぬかびら源泉郷周辺の自然を気軽に楽しめる場を提供し、滞留拠点としての魅力向上を図るため、既存の散策路（通称：ネイチャートレイル）を園路として位置づけ、上士幌町により整備・管理を行う。
- ネイチャートレイルの敷地が園地に含まれるよう、糠平園地の決定区域を5ha拡張する。

既存散策路の再整備

- 糠平集団施設地区においては気軽に自然の中を散策できる場所が少なく、従前より利用者から要望が寄せられることがあった。
- 今回上士幌町が再整備を予定している既存の散策路は階段等の老朽化が著しく、利用者に案内しづらい状況にあったが、今回公園事業に位置づけ、気軽に自然を楽しめる散策路として再整備を図ることによって、利用者の需要を満たすことができ、地区への滞留に資することが期待される。

【園路再整備】 (上士幌町)



名称	面積	経緯	用途
ベンチ	決数 141.00㎡(6.27)	2階	
観音サイン	木製 CD. 30.00㎡(0.88)シート貼り	11階(1階)	

自然環境への影響

既存の散策路を園路として位置づけ、階段や砂利舗装の再整備や標識の整備を行うものであり、新たな土地の改変はほとんどないことから、周囲の自然環境へ与える影響は小さい。



既存散策路の様子

ぬかびら源泉郷地区景観整備構想について

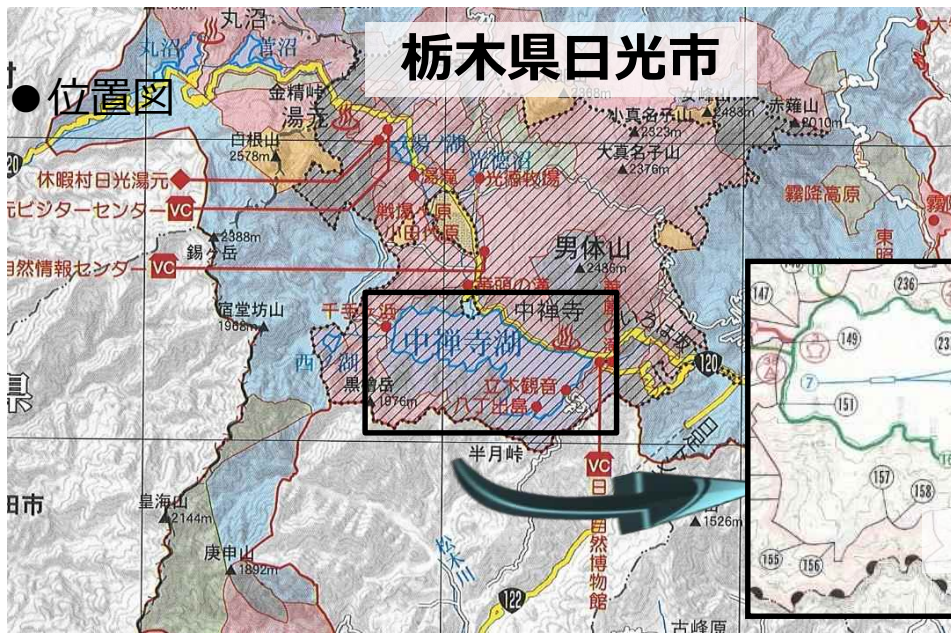
糠平集団施設地区では、平成26年度に上士幌町が本地区の滞留拠点としての魅力向上を目指して「ぬかびら源泉郷地区景観整備構想」を策定し、本園地やビジターセンターを拠点とした散策の動線の整備や各施設の再整備を環境省をはじめとする関係機関の連携のもと進めているところである。今回の再整備もその一環である。

日光国立公園 中禅寺湖周遊線船舶運送施設

変更

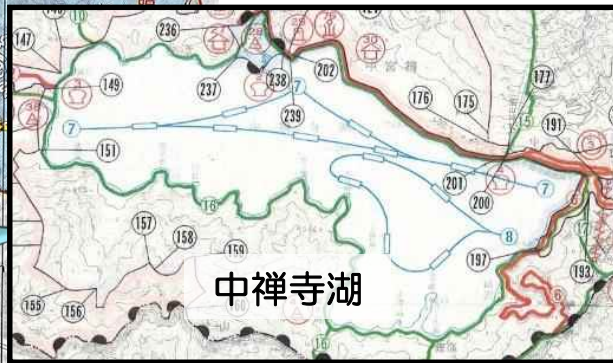
路線距離：8 km→13km

執行者：民間



第1種特別地域
(河川区域)

●計画図

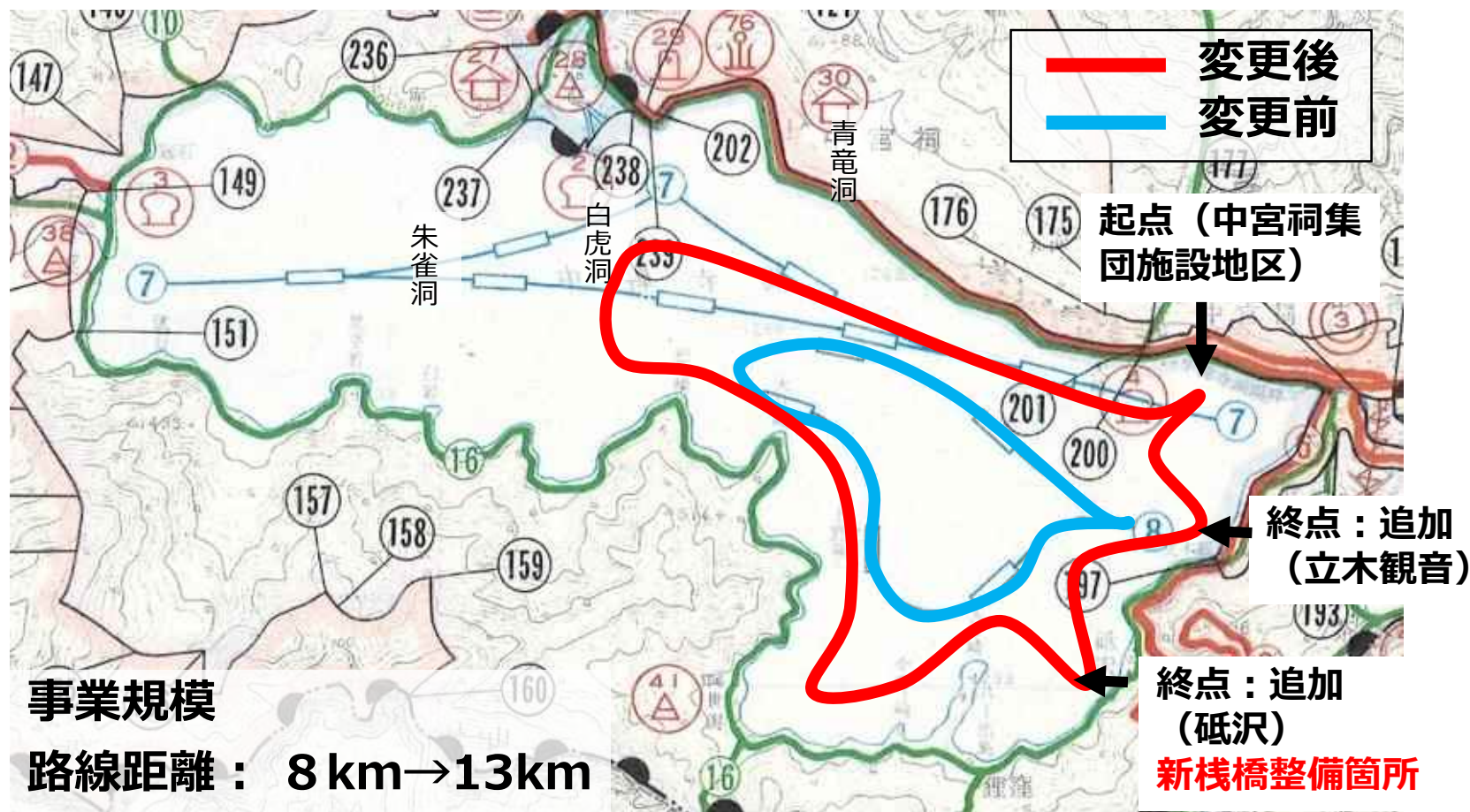


位置：日光国立公園の代表的な景観である男体山南側の中禅寺湖

主な利用：遊覧船，プレジャーボート，マス釣り，湖岸・森林・湿原等の探勝，男体山登山など
夏～秋に利用者が集中（特に紅葉時期は顕著）

歴史：明治から昭和にかけて在日外交官の避暑地
(ヨットや釣りなどを楽しんでいた)



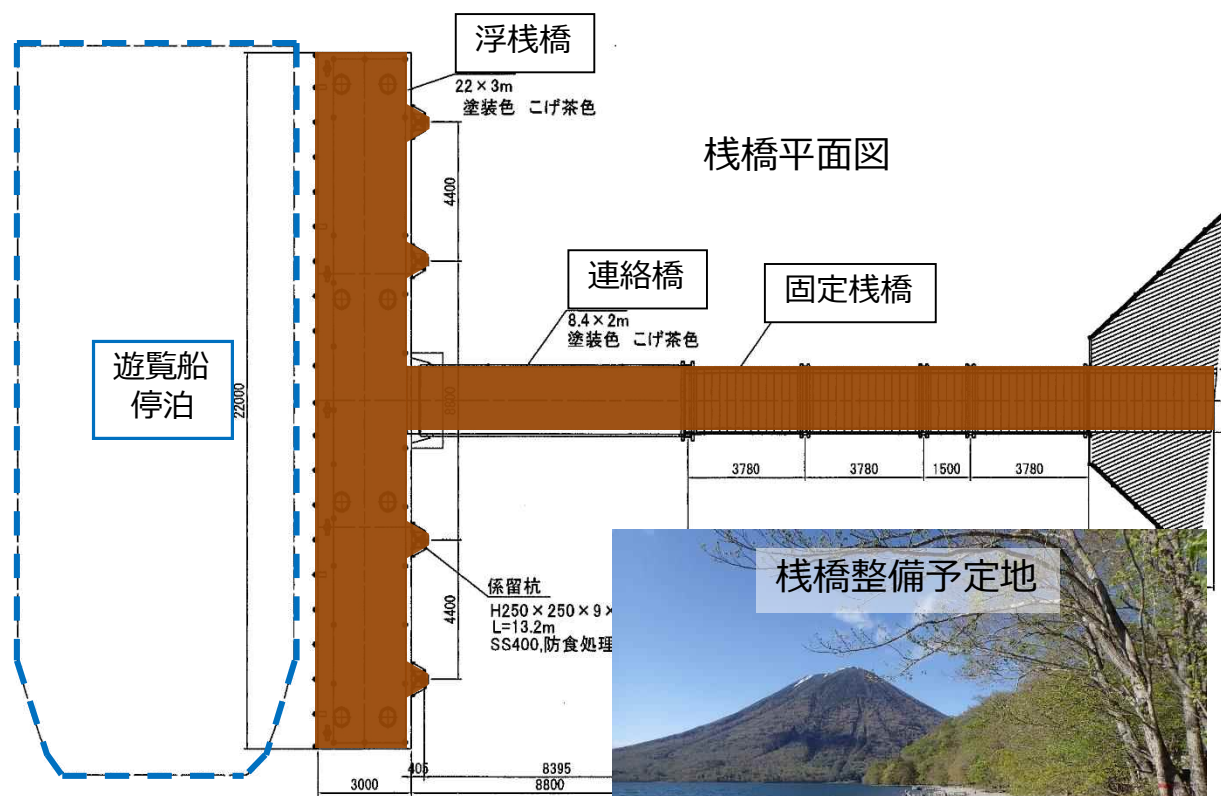


日光国立公園満喫プロジェクトの一環

- 中禅寺湖畔エリアの利用活性化を図るため、民間会社がイタリア及び英国大使館別荘記念公園付近に新栈橋を設け、栃木県が湖岸歩道の再整備を行うことで、中禅寺湖周辺の利用拠点等と組み合わせた新たな周遊利用の機会を創出する。

棧橋の新設

- 中禅寺湖の南岸エリアの活性化を図るため、現在の船舶運送施設の事業執行者がイタリア大使館別荘記念公園付近に遊覧船による送客と湖上探勝を行う新たな棧橋を整備する。



自然環境への影響

- 新規に整備する栈橋のほとんどは湖水面に設置され、湖底または地面に杭を打ち込んで固定することから、地形を大きく改変するものではない。
- 工事にあたって資材や重機の搬入は、車両の進入が可能な既存の道路を用いる。
- 工事実施にあたって支障木として湖畔沿いのハルニレやツツジ等の樹木が伐採されることが想定されるが必要最小限とする。



男体山中腹から見た整備予定地

瀬戸内海国立公園 観音崎宿舎

決定

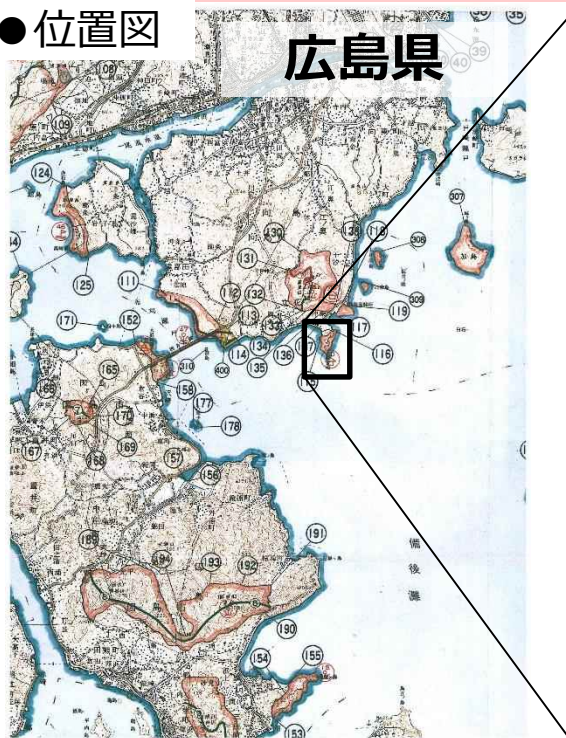
区域面積：10ha

最大宿泊者数：250人／日

執行者（予定）：民間

第2種特別地域（民有地）

●位置図



●公園計画図



- 瀬戸内海、広島県尾道市向島南端に位置している。
- 沿岸部にはウバメガシ、内陸部にはヤマツツジやアカマツ、タケ類等が見られ、豊かな海岸林を有している。
- 周辺の主な利用形態は、西瀬戸自動車道（しまなみ海道）の自転車道を利用したサイクリング、向島南部の高見山からの展望利用、海域ではシーカヤックや海釣りなどである。

観音崎宿舎決定区域図



事業規模

区域面積：10ha

最大宿泊者数：250人／日

既存駐車場と
宿舎（行為許可で
設置、撤去予定）既存レストラン
（行為許可で設
置、撤去予定）

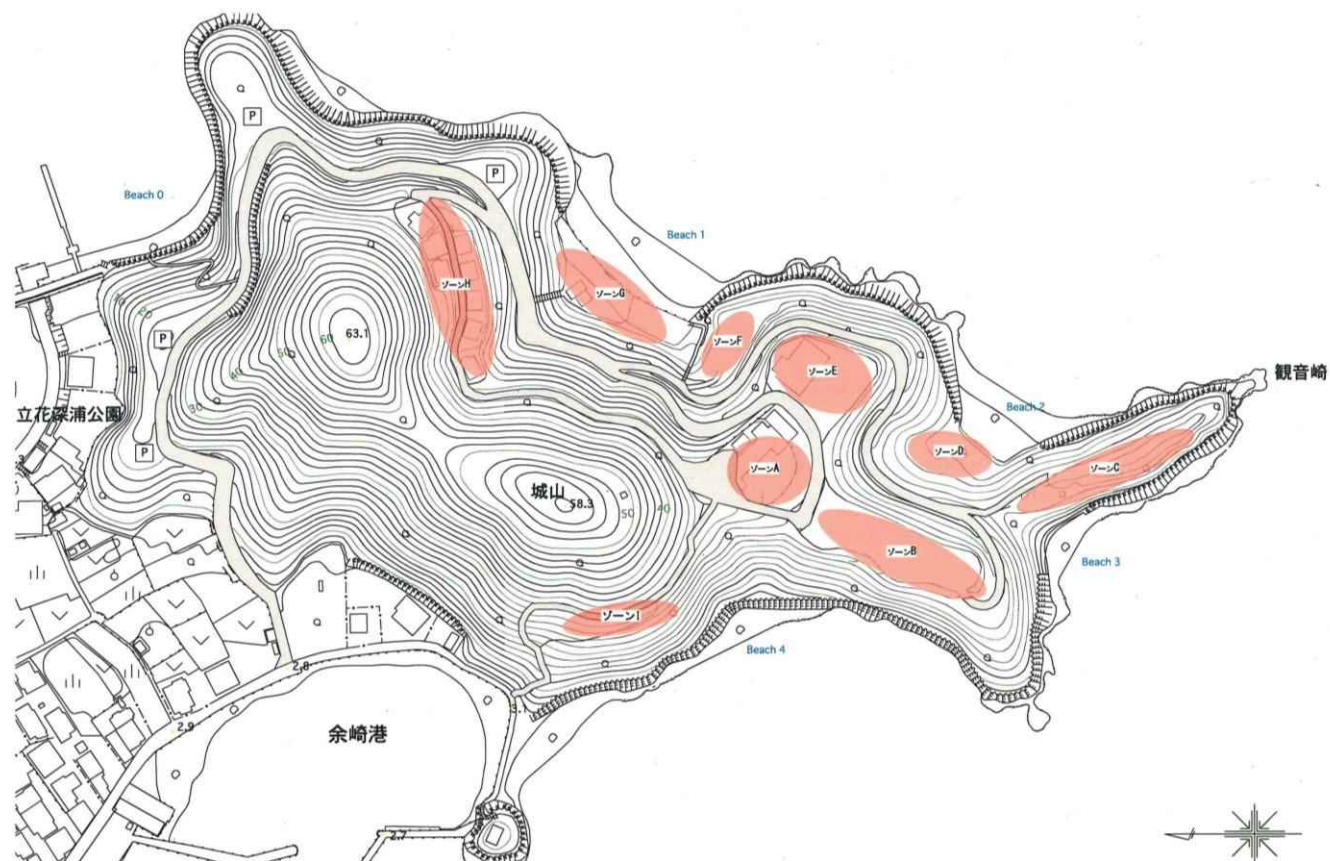
- 向島の利用者数は30万人／年以上であり、平成26年以降増加傾向である。
（平成25年：約33万人→平成29年：約36万人）
- 宿舎やレストラン等が整備されているが現在利用されておらず立入禁止となっている地域一体について、既存施設を撤去し、新たに宿泊施設を整備するため、事業決定する。

宿舎の新設

区域面積：10ha

最大宿泊者数：250人／日

- 既存施設の跡地を中心に上質な宿泊施設を民間が整備する。
- 道路は既存道を修復して使用し、新設しない。
- 既存道沿いに高さを抑えた小規模の施設を複数設置する。



自然環境への影響

- 既存施設の跡地を中心に整備する。跡地を利用できない場所についても、土地の形状変更及び樹木の伐採は必要最小限とする。
- 整備予定の建物は、高さも抑えられ色彩も考慮されており、山や周囲の木々に溶け込むよう植栽も計画されていることから、展望の著しい妨げになるものではない。また、山稜線を分断する等眺望の対象に著しい支障を及ぼすものではない。
- 汚水は浄化槽で処理し、海洋の水質に影響を与えないようにする。

雲仙天草国立公園 樋合島宿舎

決定

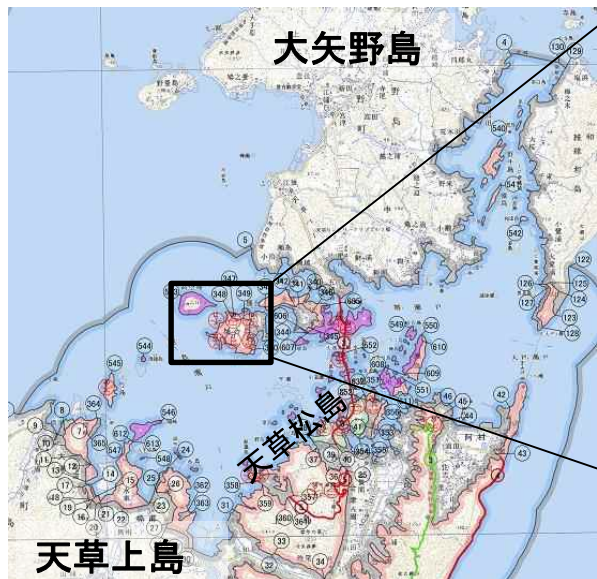
区域面積：20ha

最大宿泊者数：100人/日

執行予定者：民間

第2種特別地域（公有地（上天草市））

●位置図（天草地域）

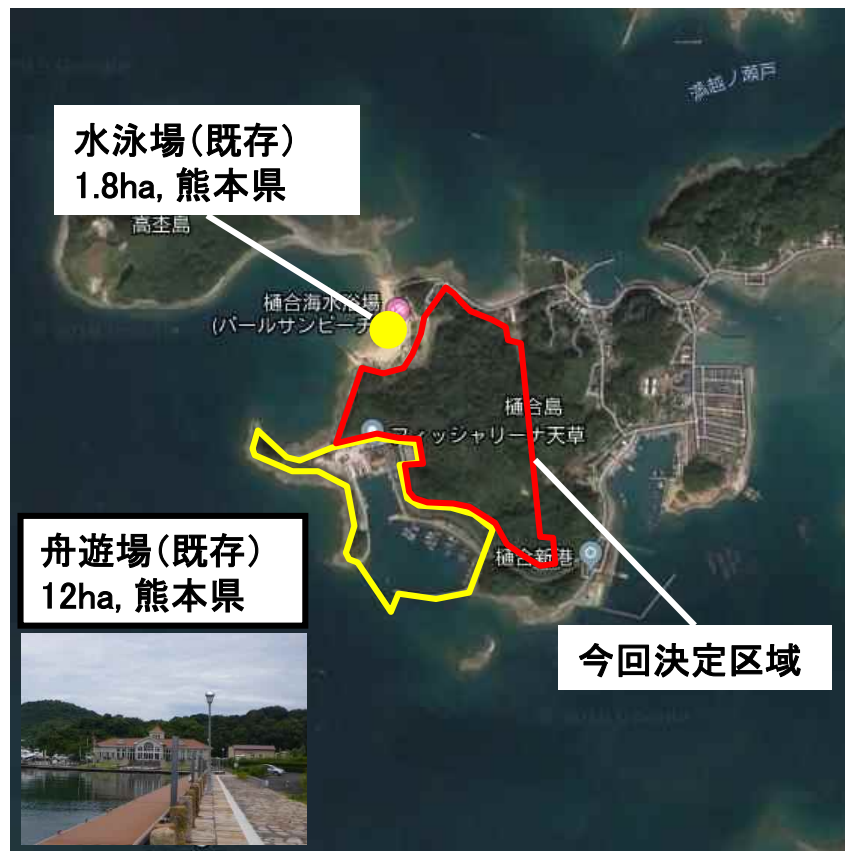


●公園計画図



- 樋合島は、昭和41年の天草五橋開通を受け、周辺の永浦島などとともに天草観光の玄関口として発展してきた。
- 天草上島から天草松島を挟んで対岸に位置し、大矢野島と永浦島を通して橋でつながっている。
- 樋合島の西側には、水泳場（パールサンビーチ）と舟遊場が公園事業として執行されており、海水浴やクルージングといった多様な利用がみられる。

樋合島宿舎予定区域図



区域面積：20ha

最大宿泊者数：

100人/日



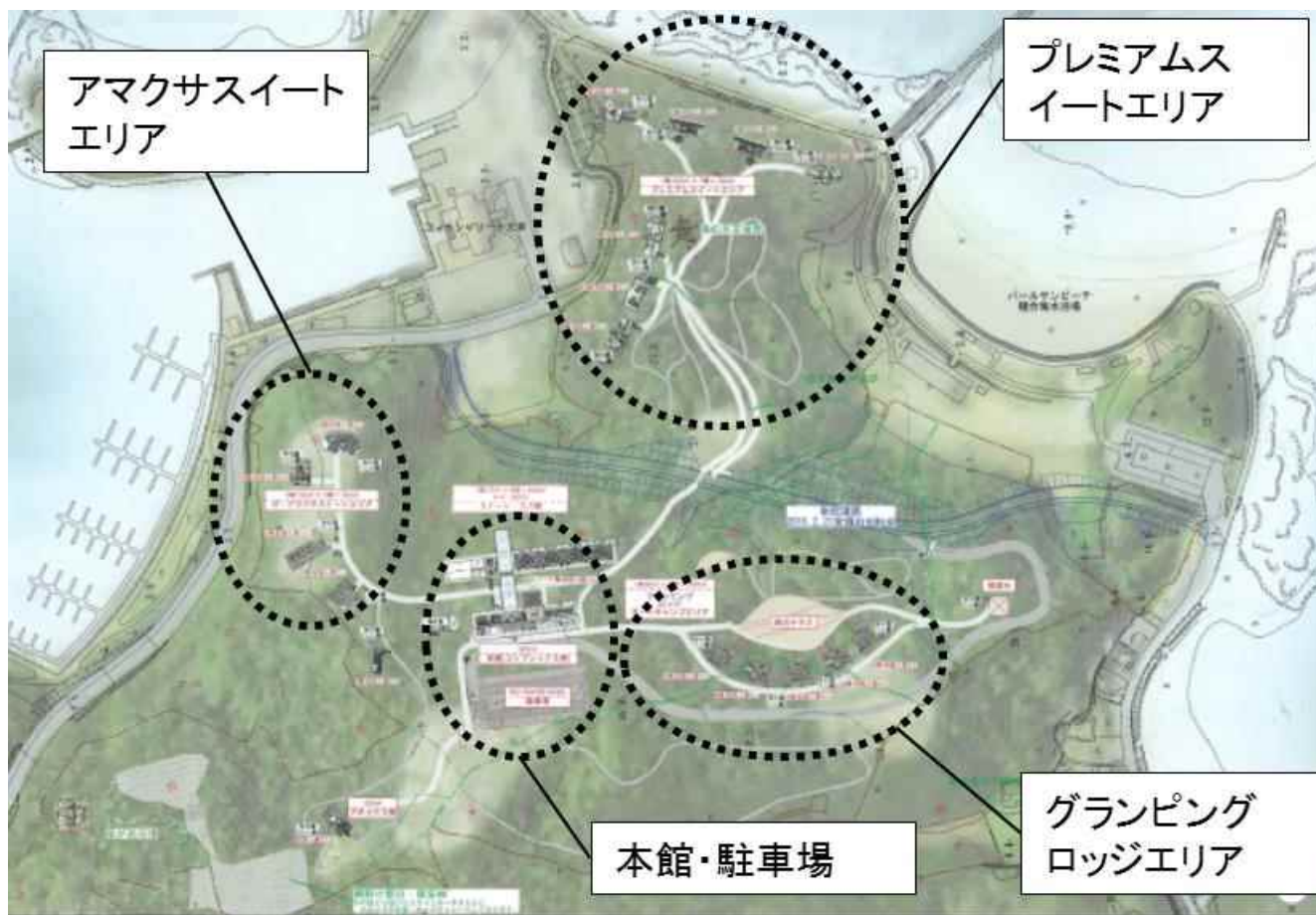
宿泊施設建設予定地（一部）

- 平成2年に総合保養地域整備法に基づき、熊本県が「天草海洋リゾート基地建設構想」を策定し、樋合島ではリゾートホテルやマリーナが計画された。その後、旧松島町（現上天草市）による計画地の土地の収用が終了し、平成29年に進出企業の目処がたったため、天草五橋周辺の拠点の1つとして、滞在型観光のための宿舎の整備を予定しているもの。

宿舎の新設

執行予定者：民間

- 現状の地形や二次林を活用しながら、自然の中でゆったりと上質な時間を過ごせるホテル、グランピングなどを中心に施設整備を行う。



自然環境への影響

- 予定地は果樹園や畑地であったものが放棄され、二次林となっている場所であり、特に保護の必要な希少種等は含まれていない。
- 土地の改変や支障木の伐採は必要最小限の範囲とする。
- 主要展望地である千巖山展望台からの眺望が想定されるが、距離が遠く、個別の建物の大部分は樹木により望見されないレイアウトが予定されているため、風致上の支障は小さい。
- 収容人数100人規模の施設が整備されるものの、汚水は浄化槽で処理し、海洋の水質に影響を与えないようにする。



奄美群島国立公園 金作原園地

決定

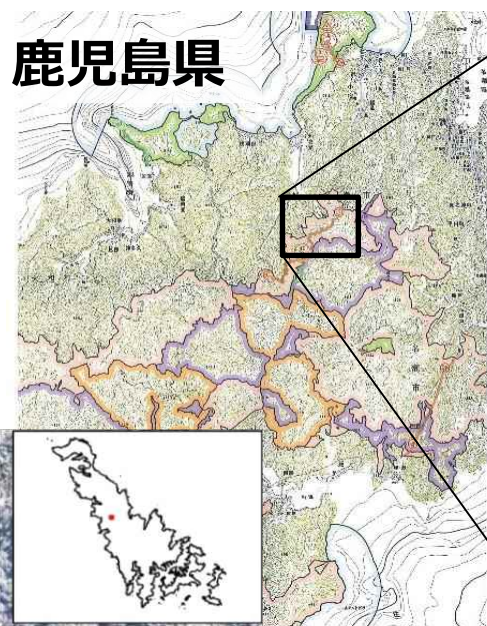
区域面積：0.3ha

執行者：環境省

第1種特別地域、第2種特別地域（国有林・公有地（奄美市））

●位置図

●公園計画図



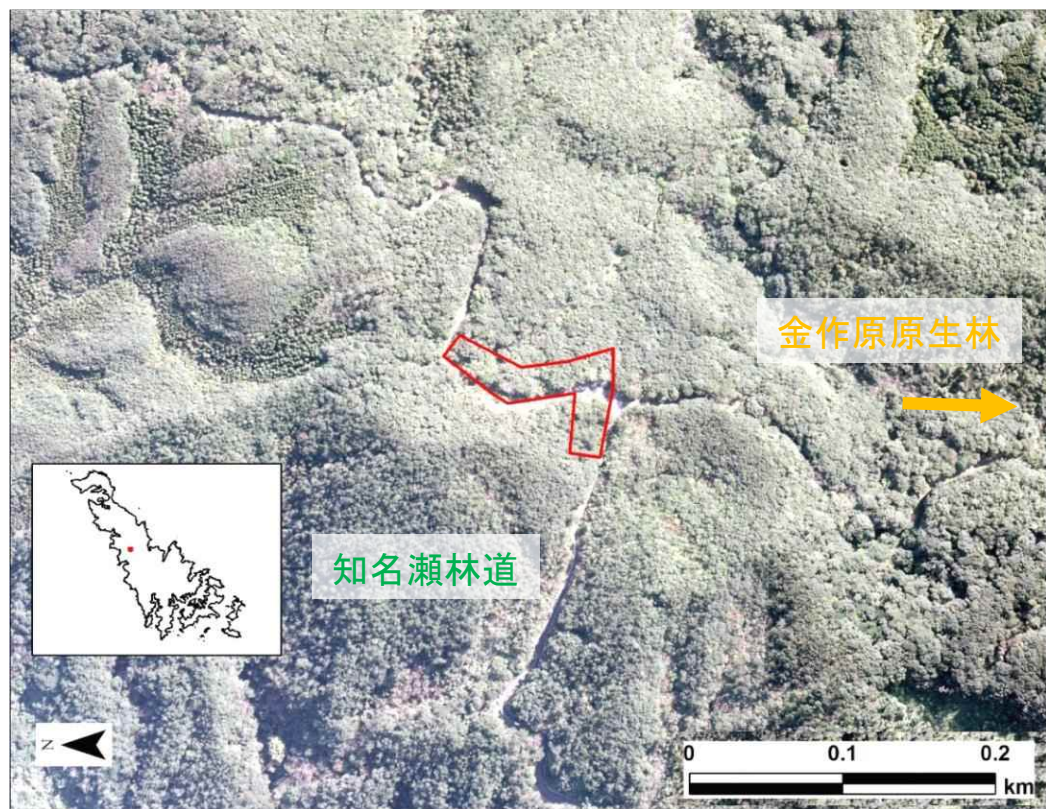
金作原林道の亜熱帯性の照葉樹林



上空を覆う、ヒカゲヘゴのシルエット

- 金作原原生林（以下、金作原）は奄美市の大川、金久田川上流に位置し、照葉樹林の良好な風致を有しており、照葉樹林の景観や固有動植物を観察の場として、利用者が訪れる利用拠点の一つとなっている。
- 本園地は金作原の入口にあたり、未舗装の林道を約1.5km進むと金作原に到達する

金作原園地決定区域図



事業規模

区域面積：0.3ha



- 近年世界自然遺産登録候補地になっていることなどから、金作原を訪れる観光客が増加しており、地域では利用適正化の検討が進んでいる。
- 本園地は金作原の入口として重要な拠点であるため、駐車スペースや案内標識等、最小限必要な範囲で園地の区域を決定するもの。

既存の標識の把握、駐車場の新設

執行者：環境省

- 金作原園地には、環境省が整備した国立公園標識がある。



- 今後、地元自治体や関係団体等による金作原の車両乗り入れについて検討が進み、金作原における本園地の位置づけが明確に示された際には、環境省により利用の適正化につながる施設整備（駐車スペースを想定）等を行う。

自然環境への影響

- 今後整備等を行う際は、周囲の風致景観との調和に留意し、土地の改変を最小限に抑える等、希少種の生息・生育地の保全上支障がないよう十分に配慮する。